

Maintenance Lab Archive

for Mercedes-Benz / BMW / Volkswagen / Audi

**メンテナンス・ラボ・アーカイブは
プロも求める情報を発信するweb サービスです**

下記のような無料記事も随時更新しています！

天井パネルが落ちてきてしまった場合の正しい対処方法

輸入車の多くで発生している経年劣化のひとつに、室内の天井パネルが落ちてきてしまうという事例があります。最初のうちは生地が浮いている程度でも、放置しておく一気に生地が垂れてしまい、頭部に接触したり後方視界が確保できなくなることも。そうならないためにも正しい対処方法を知っておきましょう。

天井パネルの垂れを解決するための2つの方法

内装の劣化にはいろいろとあるが、輸入車ユーザーの多くで発生しているのが、ルーライナーと呼ばれる天井部分の生地が垂れてきてしまうこと。最初のうちは生地がちょっと浮いているだけだが、時間が経つにつれて状態は悪化していく。ひどくなってくると、頭部に接触したり、視界を妨げてしまうため安全面においても放置できないトラブルなのである。

天井パネルはウレタン製の薄いマットに布地が張り付けられたような構造になっていて、ベース材にマットの反対側が接着されているのだが、この接着剤が劣化して剥がれたり、ウレタン自体がボロボロに崩壊してしまう。

熱や紫外線などによる経年劣化が大きな要因だが、車種によって状態が異なることから、接着剤の違いも原因の一つだと思われる。

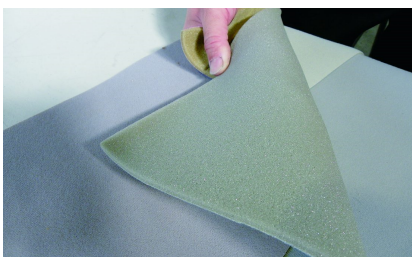
これを修理するためには2つの方法がある。
まずは純正品に交換するという方法。

内装色、生地の種類などが新車の状態になるのでオリジナルをキープできることがメリット。ただし、部品代だけで約10万円以上になることがあり、高価なのがネックだ。

もう一つの方法が張り替え。
使用する生地を自分で選べるので、
内装のイメージチェンジを兼ねて張り替えをするユーザーは多い。

使う生地にもよるが、
安い生地であれば新品交換の費用に比べ半額くらいで直すことができる。

…（続く）



スマートフォン、携帯電話からはこちら >>>

<https://www.my-starnetwork.com/mla/>

